

CAR No.36

Beyond

スーパーFJ
アルビレックス・レーシング・チーム
PRESS RELEASE
2010/12/20

ALBIREX-RT

スーパーFJ もてぎ 日本一決定戦
湊選手★NEWマシンでの参戦

とても寒い時期の12月15日から12月19日という新たなマシン投入長期スケジュールでのレースウィークは始まった。

12月15日(水) 午前10:00 1本目開始。気温10℃ 路温13℃ 湿度55% 天気は晴れ、コースはドライでの長いレースウィークは始まった。

2本目、午前11:30 気温11℃ 路温19℃ 湿度48% 天気は晴れ、コースはドライ少しは温度は上がっていたが風が冷たい。

3本目、午後1:45 気温12℃ 路温12℃ 湿度48% 空に雲が広がってきたが、コースはドライでの走行となった。

12月16日(木) 午前10:00 1本目開始。気温4℃ 路温4℃ 湿度71% 冬型が強まり朝から雪がちらついていた為、コースはウェットになっていた。

2本目、午後1:45 気温8℃ 路温6℃ 湿度65% 天気は曇り、コースは水の量は減っていたが以前としてウェットだった。

3本目、午後3:15 空は曇り空、コースはウェット 気温8℃ 路温4℃ 湿度70%での走行であった。

12月17日(金) 午前8:00 1本目開始。気温3℃ 路温1℃ 湿度62% 天気は晴れ、コースはドライしかし日陰グラベルは霜が降り凍り付いていた。

2本目、午前11:30 気温12℃ 路温13℃ 湿度56% 天気は晴れ、コースはドライマシンに修復を済ませ、マシンチェックを済ますとニュータイヤを投入しタイムアタック開始。ニュータイヤでのマシンのバランスを確認した。

3本目、午後1:00 気温13℃ 路温20℃ 湿度43% 天気は晴れ、コースはドライでの走行であった。今日までの走行の中で一番路温が上がっていた。

4本目、午後2:30 気温14℃ 路温14℃ 湿度36% 天気は晴れ、コースはドライしかし路温は低下していた。走行後ドライバーとのミーティングに時間をついやり翌日の走行に備えた。

12月18日(土) 午前8:45 気温3℃ 路温1℃ 湿度62% 天気は晴れコースもドライでの1本目走行開始となった。前日のセットを戻し、コースイン17日のニュータイヤでのベストとほぼ同じタイムを出しての走行となったがトップタイムには及ばないものだった。

2本目、午前10:15 気温7℃ 路温12℃ 湿度56% 天気は晴れ コースもドライ、更にセットを変更していたが、タイムは変わらずトップタイムも1本目と変わりがないものであった。徐々にあせりを感じつつ走行を続けていた。

3本目、午後3:10 気温12℃ 路温15℃ 湿度31% 天気は晴れ コースはドライ、このセッションは翌日の組み分け通りに2グループに分かれての走行となった。この走行でもニュータイヤを投入していたがタイムが伸びない。セットも微調節を繰り返していたが突然、5速ギアが走行中に勝手に抜けてしまうトラブルが発生し、走行を終了せざるを得なかった。この時のトップとのタイム差は約2.8秒ほどだった。

12月19日(日) 午前8:15 天気は晴れ コースもドライ、気温2℃ 路温4℃ 湿度50%ほどだった。非常に寒い中での予選開始となった。他チームがタイムを伸ばしている中、湊選手は、練習走行時のタイムとほぼ変わらずにいた。更にタイム差を広げられ、約3.2秒にまでなっていた。そして19台中、15位での予選終了となった。

午前11:05 天気は晴れ、コースはドライ 気温7℃ 路温10℃ 湿度48%でのBグループ第1レグ7LAPでのレースが始ま14番手スタートであったが、路温や他ドライバーに引張られる形であるもののベストは約2秒ほどタイムアップした。15番グリッドからのスタートだった。スタートは悪くなく、1コーナーで前車に並びかけるものだったが1コーナーでの3ワイドの一番外のラインで進入イン側より押し出されるようにグラベルに落ちハーフスピンから立て直したが、ポジションダウン挽回したものの19台中13位でチェッカーをうけ、この時点でファイナル進出に向けて敗者復活戦へ出走する事が決定した。

午後12:35 天気は晴れ、コースはドライ 気温10℃ 路温13℃ 湿度36%での敗者復活戦のスタートとなった。トップ10でのファイナル進出条件で、それ以下は敗退であった。グリッドは6番で6LAPのレースであった。第1レグ後にセットを少し変更していた。スタートでまさかのエンジンストールほぼ最後尾まで落ち、必死に挽回を前車両のシフトミスで追突してしまう形で、宙に浮いてしまい着地とともにバランスを崩しスピンと同時にガードレールに接触しクラッシュで湊選手のレースは、幕を閉じた。

レースウィークを通し波に乗れずにペースが良くないレースだったように思えた。

来期はフル参戦とともにトップを目指していきたいと思ったレースウィークであった。

Nankai Plan Co.,Ltd.

